

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 可児高等学校学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和4年10月20日(木) 14:30~16:00
- 3 開催場所 可児高等学校 会議室
- 4 参加者

会長	榎野 聡	可児高校PTA会長
副会長	太田 紀宏	西可児中学校校長
委員	市原 崇光	可児市商工会議所副会頭
	安藤 麻記子	可児市役所産業振興課主任
	菰田 さよ	可児市国際交流協会
	杉浦 浩子	岐阜医療科学大学看護学部学科長
	吉田 毅	坂戸地区自治会長
委員	松井 慶子	元可児高校PTA役員 (欠席)
学校側	總山 俊行	校長
	二村 文敏	教頭
	大野 広喜	事務長
	内藤 崇	教務主任
	川島 隆史	生徒指導主事
	山下由香理	進路指導主事
	永田 匠	記録
	堀江 菜那	記録

5 会議の概要(協議事項)

(1) 授業について(授業参観の感想等)

意見1: 学習指導要領も改訂された。大学側として高大連携でできることがあれば、積極的に情報共有をしていく。

意見2: 主体性を重んじていると聞いていたが、授業の様子を見て生徒が生き活きとして、よい雰囲気であった。

意見3: 生徒が生徒に説明するなど、我々の時代には無かった授業の取組を行っている。

意見4: 授業では、ペアでの対話を積極的に取り入れていると感じた。また、ICTの活用など、今後身に付けるべき資質能力の育成を行っている。

意見5: 教室以外に生徒が自由に利用できる場があるのか。またどれくらいの生徒が課外探究活動に参加しているのか教えてほしい。

⇒キャリアサポート室は、放課後に勉強したい生徒や赤本を閲覧したい生徒など、多くの生徒が進路研究等のために利用している。探究課外活動については、10名程度のコアメンバーがおり、可児市高校生議会や子ども食堂などにも参加している。今年度は色々とアイデアを広げている段階であり、持続可能な組織の構築が課題である。今後、コンテンツを整理しながら、生徒に有益な機会を増やしていく。

(2) 令和4年度 学校評価、地域連携の進捗状況等について

- 意見1：学校の取組がうまく進んでいる。入学志願者が定員を割り込んでいる課題もあるが、生徒が学校のPRに参加していることが今後のよい結果につながることを望む。
- 意見2：学校は様々な改革をしようとしており、生徒がそれにうまく乗っついていこうとしている。
- 意見3：入学志願者の数については少子化もあり厳しい状況もある。大学のオープンキャンパスで大学生が高校生を対応することで、大学に対するイメージが大きく変わる効果がある。
- 意見3：生徒の研究として可児市の地域課題に対して、どのような結果につなげるのか知りたい。生徒には、大学の先にある目標にどのような選択肢があるのか。テレビに映るような仕事だけでなく、地域には様々な職業があることを知ってほしい。市役所としても協力をしていく。
- 意見4：学校評価のアンケートの結果も良好である。過去、可児市の産業フェアに近隣の中学生や高校生のボランティアも参加していた。生徒に様々な経験をさせたいとの学校の思いもよく伝わってくる。積極的に協力したい。
- 意見5：夏に行った中学校学習支援ボランティアに多くの本校の生徒が参加した。中学生は、本校に対する印象が変わったと言っており、よい機会となった。生徒自身が本校の魅力を直接語るのは、教員が話すよりも効果がある。また中学生が文化祭や体育祭などの行事を実際に見る機会があれば、より本校の魅力を伝えられるのではないかと。今後もプラスの面を積極的に発信してほしい。

6 会議のまとめ

第2回学校運営協議会は、学校評価アンケートの結果を基に、学校運営や地域連携の進捗状況などを協議し、改善すべき点や充実していくべき点等について様々な意見を得て、充実した協議会となった。また第1回同様に授業での生徒や教員の様子を参観した。その中で、本校の学校運営に係る教職員の努力を認めていただきつつ、今後も地域の企業や中学校とも連携を図りながら、生徒の進路実現とともに生徒が様々な経験ができる学校であることを積極的に発信し、地域の中心となる学校になってほしいとの期待の言葉を得た。

次回の協議会では、今年度の取組の反省及び次年度に向けての提言及び次年度に向けた学校運営方針について協議する会となる。第2回学校運営協議会での意見を踏まえ、今後も充実した学校運営を推進していく。